

2021年8月2日 千葉大学アカデミック・リンク・センター
第2回 ALPS セミナー
令和3年度 千葉大学全学FD研修会

コロナ禍における 障がいのある学生への学修支援

参加者アンケート（オンライン：Zoom）

当日参加者数： 122名 アンケート提出数： 70件

本セミナーについて、参加者の皆様から寄せられたご意見・ご感想を以下に掲載いたします。なお、原則原文のまま掲載しておりますが、個人名・組織名が特定できないよう事務局で若干の調整をおこなっておりますことをご了承ください。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・聴覚障害のある方において、文字テキストがあればよいということではなく、それだけでは情報を十分にとれない可能性について知りました。ありがとうございます。
- ・障がい学生支援室の名称をバリアフリー支援室などに変更して学生だけでなく教職員向けの窓口であることを学内でアピールしていくことが大切だということが印象的でした。
- ・障がいのある学生への支援のみならず、「ストレスを回避する代替方法の提案」や「『インフォーマルな情報の欠如』としての社会的参照視の決定的な不足」ということの重要性に気づかされました。
- ・わかっているつもり、知っているつもり、になっていることも多く、改めて理解を深めることができました。
- ・すべての学生に学修の機会を、を心に丁寧に対応していきたいと思います。
- ・バイパスコース ・コロナ禍の中で障がいをもった学生に対する具体的な配慮の取組例 これは通常の授業の今後の改善にもつながる話であり、他人事では済ませてはいけないと思われる。
- ・学生ごとの対応を考えなければならないこと
- ・具体的なアプローチ例がわかった。
- ・障害者の支援は様々な視点から行うことが必要、資金も必要。
- ・参考になりました。
- ・日常的に「あったもの」が「ない」生活がストレスになるというのが一番大きな発見でした。
- ・発達支援の学生が遠隔授業に取り組む際の大変さについて、どのように大変か、理解していたつもりでも、担当する先生方に彼らの困り感や大変さをうまく伝えられていないなと感じていましたが、池谷先生が発達障害の学生の大変さを説明されているのを聞いて、非常にわかりやすく教職員に伝える際にとっても参考になるなと思いました。
- ・障害学生支援は、ダイバーシティ&インクルージョンの観点で捉える必要があると再び理解することができました。何が機会の均等なのかという視点で図書館サービスを捉えることが重要です。
- ・障害学生支援の担当部署におり、コロナ禍で学生と共に経験していたことを、池谷先生が改めてまとめて言語化してくださったような研修でした。ポイントを簡潔に教示いただき大変分かりやすく納得の内容でした。ありがとうございました。
- ・聴覚障害と発達障害を併せ持つ学生対応に苦慮していたので、参考にさせていただきます。
- ・コロナ禍における学生の困難度に改めて気づきました。
- ・合理的配慮の意思表示がない場合について

- ・障がい学生が参加機会を失うことは、すべての学生が学習機会を失うことであるということです。
- 大学ではできない、高等学校までの教育とは違うから一人ひとりの学生に配慮はできないということを、本学では度々耳にします。まずは、障がい学生と接すること、今よりも寄り添うことで、教職員の認識を変えることが、支援への第一歩、大学でできることできないことの洗いざらしになるのではないかと考えました。
- ・オンライン授業の場合の聴覚障害学生へのサポート手法について
- ・とても役に立つ
- ・障がい学生支援を長年行っていると、マニュアルや過去の事例にとらわれすぎてしまいます。今回のセミナーで、学生との対話を大事にオーダーメイドの支援を行っていくことが必要と改めて感じました。
- ・障害のある学生が学ぶ機会を失うことは、全ての学生にとって、多様性の中で共に学ぶ機会を失うことだことだという話は、ずっと感じていたことでしたが、改めて言語化していただきました。
- ・「合理的配慮は提供に向けた、あるいは提供後の対話こそ本質」という言葉は、まさしくその通りでかつ難しいところでもあると思いました。
- ・改めてこのテーマについて包括的に見直す良い機会になりました。池谷先生のスライドの右上のマークの目安がタイムログ的に分かりやすく良かったです。
- ・これからの社会の在り方については、最後の「石垣」の写真を見て勉強になりました。
- ・社会的参照視の不足は気付いておりませんでした。
- ・コロナ禍で障がい学生の状況がどのように変化したか、また授業を提供する側にどのような対応が求められるか
- ・合理的配慮とコロナ禍での学生支援について改めて考えるよい機会となりました。WEB 雑談スペースの実施のような、具体的なご提案があったのもよかったです。
- ・コロナ禍で学校に行けない中で慣れないオンライン授業などで影響を受けた学生は障害をもつ学生だけではないことがわかりました。障害のある学生だけではなく学生全員を見通した配慮が大切になると感じました。また教員が積極的にアプローチしていくことが大切だと学びました。
- ・事務組織間の連携、教員組織・事務組織間の日ごろからの連携が非常に重要だと改めて感じました。
- ・学生の学習支援にかかわっている方々がたくさんいることがわかりました。
- ・障がい学生だけではなく、一般学生にとってもコロナ禍での大学生活において履修や課題提出あるいは就活など大変であり、退学者を出さないためにも手厚い支援が必要であるということがよくわかりました。
- ・「合理的配慮」の本質、大学における特別（バイパス）コース、といったことは新しい発見であり、よくわかりました。コロナ禍で起きたことをコロナ後にどう生かしていくかについても示唆を受けることができました。
- ・日々対応している学生について、より理解が深まりました。
- ・「社会的参照視の不足」という言葉を学びました。オンライン授業がうまくいかない理由の大きな1つだと思いますが、適切な表現を知ることで理解が深まりました。
- ・発達障害の学生がオンラインの授業で困難になる状況について具体的にご説明頂き、理解が深まりました。
- ・学生本人の意志で支援を選択することの重要性が理解できたと思います。
- ・今回のCOVID-19の影響を積極的に活かすには、オンライン教材の充実が必要であること。
- ・障害を持つ学生はもとより一般学生にも学修面で困難をきたした今回のコロナというモノの影響を改めて認識できた。学生支援に対するブレークスルーになりうるというのは確かにその通りと感じた。
- ・コロナ禍において、障がいのある学生に限らず、全ての学生が、困難を抱えた学生生活に陥ったことに、改めて気づかされました。また、障がいのある学生への対応の際には、建設的な対話が合理的な配慮の本質であると、池谷先生が強調されていたことが、強く印象に残りました。

・大学窓口での対応につき、法改正を含めて改めて確認することができました。先進的に取り組まれている大学において個別対応を推奨されていることを、支援学生への対応を授業全体へ展開されていることにより、学生全体への配慮となっていることを改めて認識させていただきました。

・障がい学生ではない一般の学生であっても、コロナ禍では配慮すべき事柄が多々あること、フレキシビリティに配慮することの大切さが再認識できました。

・理解が深まった

・前職では、学生からの申し出がない限り、こちらからは何もできない、という副学長のスタンスに従っていましたが、そうではないことや、学生1人1人との対話を通して支援を行っていくことが必要であることがはっきりわかりました。

・学生支援センターは学生が行くところ、というイメージを持たれているが、そうではない。教職員も気軽に連絡を入れてほしい。学部だけで抱えるのではなく、学生支援の組織があれば、学内連携をしながら対応できるよとい、という言葉いただき、今まで「どう対応したらよいのか」とか、「こんなことを相談してよいか」と感じていたことが晴れました。気づきを共有していきたいと思いました。

・バイパスコースの具体事例をあげていただいたこと。

・今年度より合理的配慮担当となり、漠然としていた基本的な合理的配慮に関する確認と新しい合理的配慮に関する状況（コース、今後のオンライン授業へ対応など）についての知見などいただけて、大変勉強になりました。ありがとうございます。

・障がい学生支援室の在り方、学内の連携の重要性について再確認することができました。また、フォローチャットなど、取り組みたいと思える内容にもふれていただいたので、検討を進めていこうと思います。

・オンライン授業が合理的配慮として可能であることがわかった。同時に政府や行政の後押しがないと難しいということもよくわかった。バイパス授業というのは初めて聞いたので、新しい情報として貴重な発見でした。

・受講の流れや指示をシンプルにする意識はあったのですが、さらに受講のしかたについて文字化する・図示するという視点を得ることができました。

・困っている人の要求をそのまま応えるのではなく、今できる範囲の対応で、その困っている状況を改善・対応する、という姿勢を具体的なイメージとともに認識できました。職員からの気づきは何が必要なのか、リモート学習で困る学生の様子など、がわかってよかったです。

・障がいをもつ学生はもちろんのこと、一般的な学生にもコロナ禍が大きな影響を与えていることを忘れずに、日常的に学生への気づき、配慮が重要であることをあらためて認識しました。

・聴覚障害の方への支援の仕方

・日頃の学生指導に生かせる内容でした。本当にありがとうございました。

・障がい者の方へ必要な支援が参考になりました。

・例示も分かりやすく、はっきりとした口調で説明いただけたので、理解できました。

・「予期不安や経験則による困難予測によるものは不可」（資料9ページ）と明示されていることを知りませんでした。 ・遠隔授業の技術等について、さまざまな機関で教えてもらえるのですが、PETNET-Japan を初めて知りました。とても興味深いです。 ・学生がこぼれていくのを防ぐには、周囲の気づきが一番大事だと実感しました。

・合理的配慮について、理解しているつもりだったが、わかっていなかったなあと思いました

・障がいのある学生への学修支援として、学校側の設備が行き届かない事を障がいと置き換えて、学習支援を考えていかななくてはならないと感じた。

・セミナーに参加しましたことで、合理的配慮の概要を把握できたように思います。バイパスコースについての知識がなかったので、事例を踏まえたお話しが聞けまして大変勉強になりました。また、合理的配慮にとってケースごとの本人との対話が本質であることが印象的でした。今後、合理的配慮を検討していくうえで大切にしていきたいと感じました。

- ・障害を理由とした各種学習の機会の拒否は、改めて法令違反なのだと理解しました。
- ・講演を聞く機会を頂きありがとうございました。今回の学びは会話の質より量を確保する大切さを改めて認識できました。

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・とても興味ある話で勉強になりました。ありがとうございました。
- ・学生ごとの状態の共有はどのような方法があるか？
- ・オンラインで課題となりやすい視力障害者へ対応が疑問に残った。
- ・障がい者という定義がスペクトラムのどこかで支援を受けられる(程程度の)障がい者とそうでない障がい者に分けられるとすると不利なのはどちらか？
- ・具体的なお話をたくさんしていただいたので、特にありません。
- ・聴覚障害学生へのサポートについて初心者のため、基本的な部分から詳しくお聞きしたかったです。
- ・オンライン授業の利と欠点をどう考えるか
- ・セミナーの内容でわからなかったことというよりは、本日のご講演を伺った上で、池谷先生に伺ってみたいことです。障害学生が大学での全ての活動に「完全に参加」できるよう支援するという流れの中で、事前的改善措置と合理的配慮の話がありました。例えば車椅子学生がいた場合、物理的にバリアフリーにしてしまうほうが、大学も長期的にコストがかからないという話もあり、それは本当にそうだと感じています。その一方で、物理的バリアを整えながらも、文化や態度面でのバリアフリーを促すことは必須だと感じていました(むしろ物理的バリアを解消することで、他の学生のインフォーマルな支援や自然な形のサポートを受ける必要がなくなり、孤立する学生などもあるのではないかと思います)。そういった、文化的なバリア解消に、特にコロナ禍で学生同士のコミュニケーションが激減している中で何が出来るのか、その当たりのことを伺ってみたいと感じました。
- ・よく理解でき、これからの取り組みの目標ができました。
- ・コロナ過では、おそらくはどの大学も職員もリモート業務を余儀なくされたかと思います。また、今後も感染拡大に伴い、リモート業務が増えてくる可能性もあります。そのような環境下で、果たして障がいのある学生への配慮がどの程度まで出来るのか心配です。
- ・特別(バイパス)コースを作った場合、健常者の受講を拒んだら、それはそれで「合理的配慮」に欠けるような気がして、少し分からなくなりました。
- ・オンライン対応について、今後、障がいによっては合理的配慮と認められるケースが出てくる可能性もあると言ったお話でしたが、難病等で実際リスクがある場合は認められるとして、精神的に不安定な学生からオンライン対応の希望が申し出られた場合は合理的配慮と認められるのか知りたいと思いました。
- ・岡山大学は東京大学等と連携してプラットフォームを構築しようとしている。このプラットフォームにおいて、オンライン教材はどのように提供されるのか。
- ・障害を持つ学生とそうでない一般学生の認識のずれ(障害を持つ方が有利になるのではないかなど)をどう解消するかは難しいのだなと感じた。
- ・事務職員として、障がいのある学生に対してどのような支援ができるか、今後も引き続き考えていかねばならないと感じております。
- ・障害の有無にかかわらずオンラインに対しての社会的情報不足は同一であったことから、障がい支援としての個別フォローについては、学生、学生父母等のご理解からの意見、要望等が生じることはありましたでしょうか。
- ・たくさん教えていただきたいことがあります。短い時間だったので、その中で後からの皆さんの質問からポイントをうかがえたと思います。

- ・よくわからなかったことはあまりありませんでした。包括的なお話をありがとうございました。
- ・「困っている」ということを発信できない（情動的に、能力的に）人に対して「どう気づくのか」、は周りをよく見ること、想像力を働かせること、経験、でしかないのでしょうか。一部紹介がありました。対話方法、接し方のコツなど、相手が受け入れやすいコツなども知りたい、と思いました。
- ・発達障害別の違いがよくわからなかった。そもそも、自閉症スペクトラムや注意欠陥多動性障害もいくつか重なっている場合もあり、また、二次的に起こっている問題もあり、わかりにくいのですが、うまく支援につながった事例など複数あったらうれしかったと思います。それは個性を多く含み時間をかけた対話が必要なのだとは思いますが、ナラティブな内容が個人的には欲しかったです。
- ・先生の資料の中に「学部から通知があり」という表現がありました。大学では、支援室に対して学部から連絡が入るのだなと察しました。私の所属機関は規模が小さいため、入試の願書受付や入学手続きの段階から（保護者や中学校から）相談されます。ただ、”発達障害「ぎみ」”で本人も保護者も別段困っていない、というケースが多く、対応に苦慮しています。本当に難しいです。先生の負担を減らせる魔法のようなツールがあると良いのですが。

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・どんな課題・テーマであっても、結果的に、多様性の重視、円滑なコミュニケーション、学内の有機的連携が重要であると言えるのではないか。
- ・当大学でのメンター制度
- ・聴力障害者対応に比べ、視力障害者へ対応が不足しているように感じている。
- ・現行の入試で測られる能力は学生の単一性を助長するもののように思われる。障がい者をも含む多様な人間を入学させることを大学のポリシーとして推進しようとしているのであれば矛盾しているように思われる。しかしそうでない場合はたまたま入学できた障がい者に対する支援だけを考えればいい問題なのか？
- ・大学の理念とこういった社会的公平性の感覚を身に着けた上で、すべてのサービスや支援が学習者中心となっているかを考えられる力。
- ・学生との対話をいかに持続できるかが重要な力になると考えます。現在、学生とともに、対話ワークを取り入れた授業に参加して感覚を磨いています。

<https://www.reitaku-u.ac.jp/news/research/1775812/>

- ・大学における教育とは、学生の特徴に合わせてさまざまな学習方法で学ぶ機会が用意されていること、その自由を保障することであると考えている。また、学修支援のあり方は、必要に応じてどのような学習方法が最適であるか学習者自身の希望と科学的な視点から検討し、最適解を導く環境が用意されていることと考えている。
- ・2016年に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」により、障害を理由に大学が「不当な差別的取扱い」に相当するとして禁止されることとなったが、しかしながら、障害学生に対する合理的配慮等においては、各大学においては様々な対応であると思える。本学においても、まだまだ不十分な部分、未経験な部分もあるが、学生達が自分たちの大学を選び、入学してくれたことを素直に受け止め、これからの多様性を含めた社会での生き方や共生し合える教育も必要であると考えます。本日は、ありがとうございました。
- ・本学では、学生総合支援室の専任職員1名のみが担当しており、内容に応じて各部署の所属長と連携をしながら対応をしている。先日の定期試験における配慮（座席や緊急時対応）もスムーズに行うことができました。
- ・本学図書館では障がい者支援として、施設のバリアフリーと主に視覚障がい者向けのサービスを行っていましたが、ダイバーシティ&インクルージョンの観点からサービス全体を見直し、再構築に向けて準備を進めています。

・池谷先生が仰った通り、障がい学生支援においては学生ごとに建設的対話を繰り返すことが重要だと感じています。要望の文字通りの部分だけでなく、その背景や意味を理解することで、他の手段も併せて提案できるなど支援の幅が広がることができました。

・合理的配慮に関する知識だけでなく、学生や教職員とのコミュニケーションが円滑に行える力が必要であると考えます。

・オンライン授業の全学的な取組が COVID-19 の影響で始まりました。しかし、障がいのある学生への支援は、各授業を担当する教員の先生方に依存しているように思われます。充実したオンライン教材の全学的な提供には至っていないように思います。

・障がい者差別解消法の詳しい知識は必要だと感じた

・学修支援に関する経験値、特に専門の知識を有さない教職員が対応する場合、適切な支援内容を決めるまで支援者、学生双方に負担がかかったり、不満を残す事例がございました。

特に法改正後に普通級への進学が可能となった発達に関する障害は、2 次障がいに関する対応が必要な事例が多く、障害に関する基礎知識だけでは個別対応の相談には乗れません。支援組織の中に基礎知識と事務手続きを進める職員と心理カウンセラーの配置が必要と考えます。

学生本人障害範囲にもよりますが、大学卒業後の進路が決まらない、または、先延ばしのように編入学を繰り返すケースもいくつか見えてきました。今後の支援は、大学卒業後の国による支援、労働基準監督署によるプログラムの充実いただき、次へつながる支援が必要と考えます。

・障害者への正しい理解。個人への寄り添う視点と同時に客観的な視点が必要。

・機械的な対応ではなく、学生に寄り添った支援が必要であると実感しております。人によっては甘やかしていると見えるようですが、その区別を見せるのは難しいなと感じます。

・本学では障がい学生支援室が学生生活支援センターという事務局の中に設置されており、内容が教学にかかわることであるにもかかわらず、教員待遇ではないため、教員の学内理解の促進に非常に苦労しています。そのかわり学生支援ネットワークという連携システムで、職員の理解を得られるよう毎月定例会議を行っています。

・日々の業務に追われると、学生の様子を見失いがちです。一生懸命になりすぎてトゥーマッチなサービスを提供してしまうことがあります（その逆も当然ありますが。）、見えてないなあ、と反省することが多い毎日です。障がいの有無に関係なく、受け手がどう感じるのか、何を求めているのか、想像力は大切だし、観察力も大事なのだろう、と思います。その力を持っていても、心に余裕がなければその能力は発揮できないかも、とも思います。

・最近では個々の個別指導が必要になることが多い中、アカハラなど教員側が動きにくい風潮にあることも事実かなと考えております。学生への距離感に悩むことも多いです。また、自身の研究活動と教育とのバランスもどのようにしたらよいか悩んでいます。良いアドバイスがあれば御教授いただければ幸いです。

・本学では過去にノートテイクを実施していました。

・オンライン授業が平準化することが予想される中、直接会話できない分今まで以上に学生との会話量を担保し寄り添っていく必要があるのではないかと考えています。

4. オンラインセミナーを受けてみて、ご不便に感じたこと、改善してほしいことがありましたら、ご自由に記入してください。

・申込時にメールアドレスを間違えていたせいにも関わらず、直前の問合せに迅速にご対応頂き、ありがとうございました。

・不便な点はありませんでした。

- ・開催時間がもう少し長いといいですね
- ・特にありません。良い機会を頂きありがとうございます。
- ・先生の話すスピード、話し方が良かったこともあり、非常に聞き取りやすかったです。
- ・特に不便などはありませんでしたが、本日、どうしてもしっかりと時間が確保できず、大変失礼ですが、別件に対応しながら、必死にお話を伺っておりました。気になるお話がたくさんありましたので、動画視聴など、ご検討いただくと幸いです。
- ・当日の資料について、可能であれば事前に配布いただければ幸いです（今回は当日、講演が始まってから急遽印刷して講演の際に参照しておりましたので）。本日午前いただきました連絡メール等にて、ダウンロード先等をご教示いただければ幸いだったかと存じます。
- ・事前アナウンスで資料のダウンロードの案内があったのに、チャットにURLが出ておらず、焦りました。プリンターが近くにないため、講義が始まってからURLのお知らせは少し困りました。

5. 本日の内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・ごくろうさまでした。
- ・対話はすべての人・活動の根幹にあると思っています。私自身の研究テーマのひとつに応答性があり、対話すること、応答すること、小さくてもコミュニケーションを取り続けること、それが大きな花につながると思っています。改めて対話の重要性を実感した機会となりました。ありがとうございました。
- ・とても勉強になりました。また池谷先生のお話はスライドに忠実にお話しいただいたこともあって、余計な情報が少なくわかりやすかったですね。これも発達障がいの学生の中には多くの情報を与えすぎると混乱するという話があったので、そうしたところを意識されているのかとも思いました。
- ・聴力障害者対応に比べ、視力障害者へ対応が不足しているように感じている。
- ・初心者にも十分理解できる内容で、たいへん勉強になりました。ありがとうございました。
- ・障害のある学生支援について、色々と研修等で話を聞いてきましたが、今回のお話が一番具体的で分かりやすかったように思います。
- ・池谷先生のお話、とても共感して拝聴しました。
- ・このような機会を設け、学外からの参加も受け入れていただき、感謝申し上げます。
- ・大変わかりやすく、頭の中を整理することができました。新たな発見も多く、勉強になりました。「穴太衆の石積み」のお話も感動いたしました。ありがとうございました。
- ・障がいの範囲が拡大し、さらにコロナ禍が加わり、困難や不便を抱える学生に対する支援への薄弱さにもどかしさを感じておりました。本日は、貴重なセミナーに参加させていただき、ありがとうございました。
- ・内容、分量、休憩時間等々含め、参加しやすい構成でした。ありがとうございました。
- ・このような研修に初めて参加させて頂きましてとても有意義に感じました。ある意味、オンラインでの研修も必要性があると感じることができました。
- ・わかりやすいお話で、とても興味深く拝聴しました。
- ・個々の障がいの状況も異なるため、大学としてどこまで支援ができるか不安もありますが、本日のセミナーを参考に少しずつ前進していけるよう取り組んでいきたいと思っております。貴重な研修の機会をありがとうございました。

・将来小学校教員を目指しています。小学校には特別学級がありますが、障害をもつ児童でも普通学級で生活する児童もいます。その際の児童への学習面での対応やそれ以外の指導や接し方について気をつけるべきことはありますか？また周りの児童がどのように障害をもつ児童を理解できるのか、その点で教員の立場で意識すべきことを教えていただきたいです。

・次回のプログラムも楽しみにしております。ありがとうございました。

・人とうまくかかわれない看護学生の評価をどのように配慮すべきなのかもやもやしております。中には患者さん対象の実習に行かせて良いのかと思う学生もおります。

・コンピュータが得意な学生や家族が助けてくれる学生はコロナ禍であっても充実した大学生活を送ることができていると思いますが、そうでない学生が相談しやすい体制をしっかりとつくる必要があると思いました。

・もう少し時間をとって良かったのではないかと感じました。

・非常に実態に即したお話で、参考になりました。ありがとうございました。

・大変勉強になりました。このような機会を設けていただきありがとうございます。

・個々の学生の特性や困りごとを対話を通して支援につなげていくことの重要性を改めて感じました。並行して、大学において関係する各部署や教員の理解を十分得られないこともあり、説明やコミュニケーションの大切さを日々、実感しています。今後、障害者差別解消法において私立大学でも合理的配慮が法的義務となっていくこともあり、学内での研修会等で合理的配慮について自身も学びを深めると同時に学内の教職員にも知ってもらうよう積極的に働きかける取り組みが必要と思います。

・様々な気づきがあったのでとても有意義だった

・学修支援以外の場での、障がいのある学生への支援についても、情報を得られるような機会がありましたら幸いです（図書館職員ですので、図書館利用に関する他大学等の情報が得たいと考えております）

・事前のメールで、記録の為に録画をされているとのことでしたので、どこかのタイミングで拝見する機会、あるいは、または別の機会に、同セミナーを再度行っていただきたく思っております。

ご検討のほどよろしくお願いいたします。

・業務経験により、また、個人的にも本日のテーマについて、興味があり参加させていただきました。私立大学の場合、障がい支援の個別対応が、標準化されたサービスを超える内容もあり、納めていただいた学費を超えるケースが想定されます。今後の課題になる感じました。

・業務の都合で質疑応答からのみの参加になりましたが、質疑応答部分のみでも大変興味深い内容でした。本編部分の事後視聴などの機会はございますでしょうか？事後配信の機会があるようでしたら、楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

・非常にわかりやすかったです。具体例もご紹介いただけて良かったです。ありがとうございました。

・情報収集はするが、カテゴライズではなく（前例にならって、マニュアル化するではなく）、対話によって対応策を検討する、という事も印象に残りました。このような機会を頂戴し、ありがとうございました。

・貴重なお話を伺う機会をいただき、ありがとうございました。

・別の機会にもっといろいろな事例紹介をうかがえればと思いました。

・授業担当者が1人の場合は学生の特性にも気づきやすいと思うのですが、たとえばオムニバス形式など複数の担当者がリレーしていくような授業では把握に遅れが出ることも予想され、その場合はまた柔軟な工夫が必要になるのだろうなと思いました。

・とても参考になる内容でした。参加させていただきありがとうございました。

・ 2つの章に分けていただいていたいました。1章の内容は、ほぼ既知のものでしたが、きっと、この部分の説明と確認がなければ本題以前の疑問がでてきてしまうのだろうな と納得しました。おかげでとてもわかりやすく、余計な「？」を抱かずに済みました。

・ コロナ禍におけるサポートの難しさ

・ 質問で挙がりました気づきを支援する取り組みについて、各大学様にて連携面で同じ課題感をもっていることにとっても共感するとともに、励みになりました。セミナー参加させて頂きまして、誠にありがとうございました。

6. 次の(1)、(2)について、該当するものに○をつけてください。

(1) a. 千葉大学外の方 61名 b. 千葉大学内の方 9名

(2) a. 学生 3名 b. 教員 17名 c. 大学職員(図書館職員を除く) 26名 d. 図書館職員 23名
e. 出版関係 0名 f. その他 1名

7. 千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナー及びシンポジウムの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です)

お名前：() ご所属：()

電子メールアドレス： 申込時に利用したもの それ以外 ()

ご協力ありがとうございました。

※ 22名が新規に継続的な情報提供を希望